

アウトリーチ研修で学んだこと これからの抱負

3/18 説明会

アウトリーチ研修で学んだこと

みなさん、こんにちは！アウトリーチ研修3期生の塚本です。

今年度、研修に参加して学んだことをお話します。

1年通してやってきたことを言葉で表すと『対象者の立場に立って考える』と『対象者の抱える困り感を知る』それと『対象者に選んでもらう繋がり方を考える』でした。

自分ではない誰かの行きそうな場所とか、どんなことで困っているのか、悩むのかを想像するのは簡単なことではなかったです。

そしてアウトリーチを実行して長く続けて結果をだしていくためには、関わる人たちのチームワークが必要で、社会にあるいろいろな組織や職業、団体のそれぞれもつ特色とか強みとかそういったものを頼ってみると、また違った見方ができるようになっていく、そういうことを学んだのだけど、実際に力になったことは『思うことや言葉にすることは簡単だけど、実際にやってみるのはとても大変だぞ』ということがわかったことでした(笑)

この研修には大学生や福祉関係の方、社会人、主婦など生活環境や年齢や価値観も全く違う人たちが参加されます。

その中からランダムに選ばれたグループで、対象者を誰にして、いつどこでどんなイベントをするのかを決めたり考えたりする実習があるんですけど、ミーティングをする日にちや時間を合わせたり、意見を出し合うときにSNSを使うと、返事が返ってくるまでの間にタイムロスがあったり、感情が見えないので相手が何を言い、こちらが何を伝えたいのかのすれ違いはやっぱりあって、ほとんどのグループがそこで苦労されたというお話を聞きました。

誰も間違っていない中で、そのすれ違いを寄せていきたいし、イベントの企画を立てなくちゃいけないし、それに自分の生活も大切にしくちゃいけないと追いかまれたときに、大変だなと感じました。

お互い思っていることを、寄せ合おうとするときに必要だったのがコミュニケーションでした、もともと私はその能力が高くないから、もう少し勉強していけたらなーと思います。

研修が大変だとはいいますが、ここで学べることは一般社会では結構当たり前のことであると個人的に感じてます。いろいろな職種ごと、経験よっての価値観のズレはありますが、そこを埋めていくためにも、この研修は学んでよかったと思うし、多くの福祉関係の方たちにも知ってもらいたいと思ってます。

これからの抱負

そして私は、ここで教えていただいたアウトリーチのスキルを使って、ひきこもりの方たちとインターネットや様々な形で繋がっていく活動をしていきたいと思っています。

実は私はこのセンターが対象としている子供たちと似たような家庭環境で育ってきています。そして引きこもり経験もあります。

困っていることに気が付いてなかったり、周りの大人を信じていけない気持ちもとてもよく分かります。助けてほしいけど発信できない苦しさもよく分かります。

私が過去の自分に何をしてあげられるかを考えたら、行きつくところはやっぱりアウトリーチなんです。

この研修に申し込んで受けてみると、課題を抱えた人たちに向き合おうとしてくれる人がたくさん参加していました。置いてきぼりにされてるって思っていたから本当に嬉しかったです。

だから、その人たちに任せてばかりじゃなくて、私にもできることはやっていきたいと思うのと、対象としている方たちが本当に困ったときに選択できるような情報を届けるためにもアウトリーチ活動をしていきたいと思っています。